

北海道・函館市出身の画家・岸本春代は、幼少の頃より絵を描くことを楽しみ、高校時代には突出した画才を発揮、本格的に美術を志し学ぶことを決意します。大学在学中には公募展に入選、卒業、会社勤務を経て、黒松内町や喜茂別町など後志地方の各地に移り住みながら創作を続け、受賞を重ねました。そして現在は、ニセコ町を拠点に活動しています。

岸本作品は、緻密で濃厚な表現によって生み出される対象のリアリティが際立つ一方で、メルヘンティックな空想の物語が潜んでいます。それは小川原脩が青年時代に情熱を傾けた「シュルレアリスム(超現実主義)」の絵画そのものと言えるでしょう。空想の出発地が岸本自身の体験を通じた素直な想いや家族愛に基づいていることが、私たち観るものを優しく包んでくれる大きな理由であることに思い至ります。

創作意欲を駆り立てる動物と植物の精緻な造形は、自然物であるが故に刻一刻と変化し、朽ち、感動した瞬間の印象とは乖離していきます。一筆一筆、塗り重ね、密度を増しながら新鮮な色彩を再現する一、対象と制作の間にいくつも存在する時の流れ、その緩急が重なり合い、独特な魅力を醸成しています。美しいものとの出逢いをキャンパスに刻む、絵画の仕事を手際よく示している作品の数々をご覧ください。

作品リスト

No.	作品名	制作年	作品サイズ(cm)	技法・材質
1	かみさまのき	2002	72.0×91.0	油彩・キャンバス
2	ひかり	2003	227.0×162.0	油彩・キャンバス
3	つながり	2006	162.0×162.0	油彩・キャンバス
4	思い出せるかな	2008	91.0×116.7	油彩・キャンバス
5	空も森も風さえも	2008	194.0×130.3	油彩・キャンバス
6	伝言	2009	162.0×162.0	油彩・キャンバス
7	赤い宇宙	2011	162.0×194.0	油彩・キャンバス
8	彼の地で	2011	162.0×130.3	油彩・キャンバス
9	秋の果実たち	2016	24.2×33.3	油彩・キャンバス
10	世界の入り口	2017	162.0×130.3	油彩・キャンバス
11	天に還る	2018	130.3×162.0	油彩・キャンバス
12	Rest area	2019	60.6×45.5	油彩・キャンバス
13	Summer festival	2021	130.3×162.0	油彩・キャンバス
14	夕暮れまで遊ぶ	2022	162.0×130.3	油彩・キャンバス
15	Cornucopia	2012/2023	162.0×162.0	油彩・キャンバス
16	おもちゃかぼちゃ	2008	16.0×18.0	鉛筆・紙
17	ナデシコ	2012	13.0×10.5	水彩色鉛筆・紙
18	アジサイ	2012	9.5×12.5	水彩色鉛筆・紙
19	リンゴ	2014	9.0×13.8	水彩色鉛筆・紙
20	ガクアジサイ	2015	15.0×19.0	水彩色鉛筆・紙
21	ロベリア	2015	16.0×11.9	水彩色鉛筆・紙
22	うすみどりのおもちゃかぼちゃ	2015	16.5×20.4	水彩色鉛筆・紙
23	ガマズミ	2015	12.0×16.0	水彩色鉛筆・紙
24	小さなおもちゃかぼちゃ	2015	15.0×18.5	水彩色鉛筆・紙
25	ころころ	2016	17.0×21.3	水彩色鉛筆・紙
26	デンファレとヒメリンゴ	2018	16.0×18.1	水彩色鉛筆・紙
27	アスパラガス	2018	24.5×19.5	水彩色鉛筆・紙
28	三つのドングリ	2019	15.0×15.0	水彩色鉛筆・紙
29	トチノミ	2019	17.8×21.9	水彩色鉛筆・紙

作家略歴

岸本 春代 Haruyo KISHIMOTO(1975-)

- 1995 北海道美術協会展(道展)初入選
 1998 道教育大学札幌校芸術文化課程美術・工芸コース卒業
 さっぽろ美術展(札幌市民ギャラリー)
 2008 グループ展「4つの世界の物語」(札幌・大同ギャラリー)
 2009 白日会北海道支部展(札幌時計台ギャラリー)
 くっちゃんART2009(小川原脩記念美術館、～'12、'15～'20)
 道展会員
 2011 季の会－北の女流画家展(札幌・GALLERY ESSE、'12)
 2017 岸本春代絵画展(ニセコ町学習交流センターあそぶく、～'23)
 2019 ニセコ4人展(余市ワイナリー ギャラリー&アトリエ)
 2020 第62回麓彩会展出品(小川原脩記念美術館、～'22)
 函館市生れ／ニセコ町在住

岸本春代展 Plants & Animals —いきとしいけるもの—

- 会期／2023年7月15日(土)～9月24日(日)
 会場／小川原脩記念美術館 第2展示室
 開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
 休館日／毎週火曜日
 観覧料／一般500(400)円、高校生300(200)円、
 小中学生100(50)円 ()内は10人以上の団体料金



世界の入り口 2017年



小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1(0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>

岸本春代展 Plants & Animals

—いきとしいけるもの—

Haruyo Kishimoto Exhibition : PLANTS & ANIMALS

2023.7.15 | Sat | - 9.24 | Sun |

開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日／毎週火曜日
 観覧料／一般500(400)円、高校生300(200)円、小中学生100(50)円 ()内は10人以上の団体料金

小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1(0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>



作家の言葉

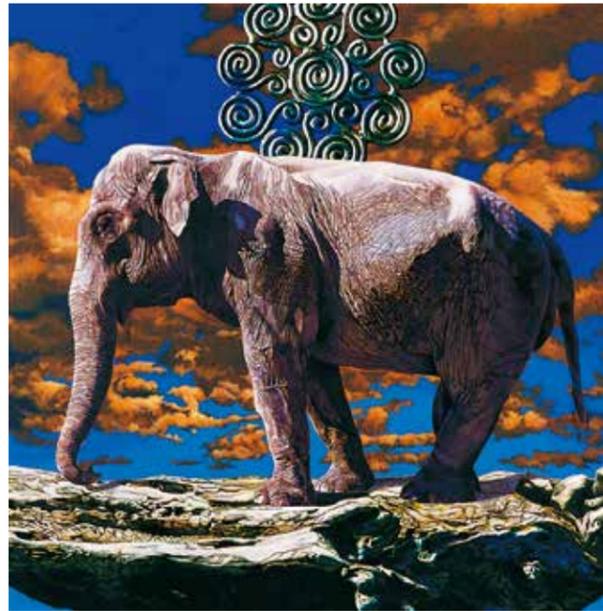
私は、自然が創り出す色や形に興味があり、それらを作品に取り入れて制作をしています。例えば、山葡萄のツルは驚くような造形で弧を描きます。雲は毎日形を変えて、夕暮れの空は、圧倒的な色彩を放ちます。秋に実る木の実、まるで宝石の様な輝きを持っています。日常にある小さな事柄ですが、それを発見するたびに感動を覚えます。絵を描くのは、感動の記録なのかもしれません。

子どもの頃、父の仕事柄、我が家には大量のコンピュータ用紙がありました。幸運にも、それは自由に使うことが出来たので、いつも好きなだけ絵を描くことができました。小学生の時、父が一冊の本を手渡してくれました。複数のイラストレーターによる、小さなカットを集めた本でした。その中に、実物と同じように描かれた豹のイラストがあり、衝撃を受けました。どうすればこんな絵が描けるのだろうと、何度も模写をした事を覚えています。

高校に入学し、恩師、福田好孝先生に出会いました。先生は、美術を担当し、美術部の顧問もされていて、当時(いえ、現在も)大変お世話になりました。美術の授業は楽しくて、一つ一つの課題をこなす度に、新しい世界が広がるようでした。高校時代に夢中で描いた作品は、現在の創作活動の原点でもあります。

日々、様々な事が起こる時代を生きていますが、少しでも絵を描く事を継続出来たらと思っています。

岸本 春代



つながり 2006年



伝言 2009年



夕暮れまで遊ぶ 2022年



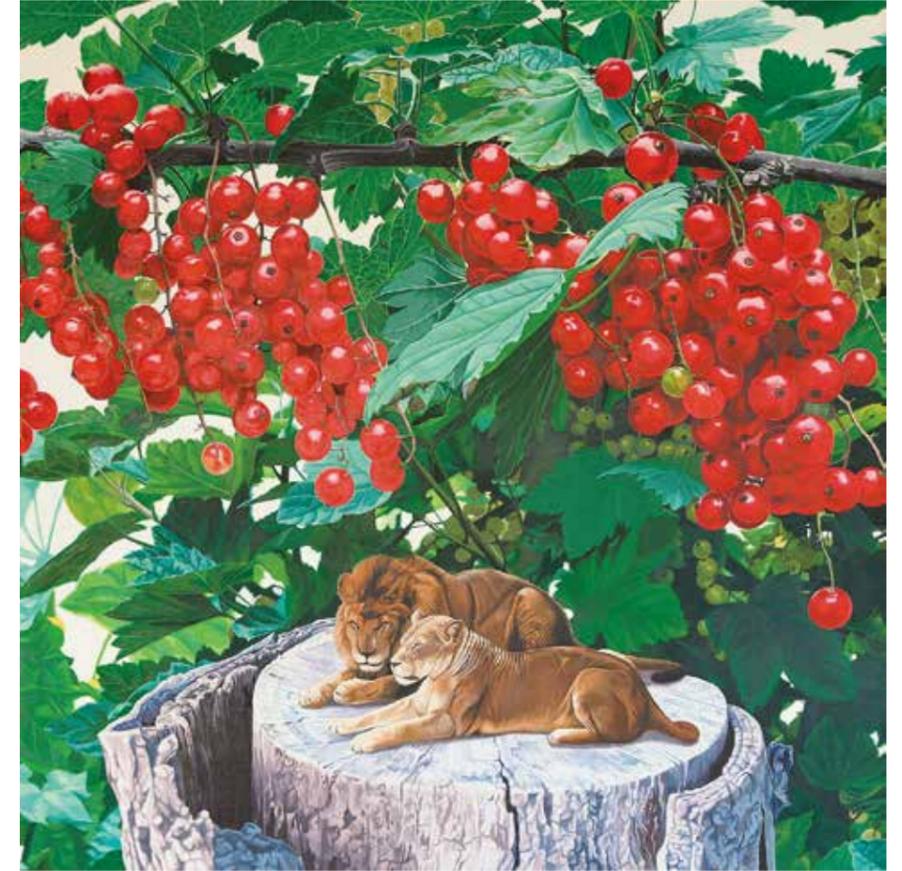
赤い宇宙 2011年



かみさまのき 2002年



秋の果実たち 2016年



Cornucopia 2012/2023年



天に還る 2018年